

「三重県議会の活動及び人権、県の広報に関するアンケート」の実施結果報告

「三重県議会の活動及び人権、県の広報に関するアンケート」の実施結果を次のとおり報告します。

アンケートにご協力くださいました回答者の皆さんに厚く御礼申し上げます。

アンケート結果につきましては、今後の広聴広報業務の参考とさせていただきます。

アンケートの概要

1 アンケート実施期間

平成29年11月21日（火）から12月5日（火）まで

2 回答状況

対象者数 1,163人

回答者 749人

回答率 64.4%

3 回答者の属性

性別 男性 369人(49.3%)

女性 380人(50.7%)

年代別

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
人数	2人	55人	154人	207人	159人	136人	36人
割合	0.3%	7.3%	20.6%	27.6%	21.2%	18.2%	4.8%

地域別

	北勢	中勢	伊勢志摩	伊賀	東紀州
人数	358人	204人	84人	79人	24人
割合	47.8%	27.2%	11.2%	10.6%	3.2%

*北勢：四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市、桑名郡、員弁郡、三重郡

中勢：津市、松阪市、多気郡

伊勢志摩：伊勢市、鳥羽市、志摩市、度会郡

伊賀：名張市、伊賀市

東紀州：尾鷲市、熊野市、北牟婁郡、南牟婁郡

アンケートの結果

(Q1 三重県議会の活動に関する調査 (10大ニュースの選定))

平成29年三重県議会10大ニュースの発表について

三重県議会10大ニュースは、県議会の取り組み状況を広く発信して県議会への関心を持っていただき、参加意識を高めていただくために、県民参加の手法を活用して選定を行っています。

<選定結果>

以下の取り組みを平成29年三重県議会10大ニュースとして選定しました。

※三重県議会の基本方向(平成15年10月決議)ごとに区分して記載しています。

【開かれた議会運営の実現】

- 議長定例記者会見における手話通訳の導入(2月)
- 議会中継への手話通訳導入の方針を決定(9月)

【住民本位の政策決定と政策監視・評価の推進】

- 「子どもの貧困対策調査特別委員会」の委員長報告及び知事への提言(3月)
- 「障がい者差別解消条例策定調査特別委員会」を設置(5月)
- 「働き方改革調査特別委員会」を設置(5月)

【独自の政策提言と政策立案の強化】

- 「平和のつどい」に協力(8月)
- 「北朝鮮の地下核実験及び弾道ミサイルの発射に抗議する決議」を全会一致で可決(9月)

【政務活動費及び議員の定数・選挙区】

- 政務活動費を減額(4月)
- 政務活動費にかかる領収書等のインターネット公開(7月)
- 県議会議員の選挙区及び定数について意見募集(9月)

<選定方法>

1. 10大ニュースの候補として21項目をリストアップ
2. 次の方法により投票を実施
 - ・ 県議会ホームページからの投票
 - ・ 県議会傍聴者による投票
 - ・ e-モニターによる投票
 - ・ 県議会議員による投票
3. 正副議長が投票の結果を参考に10大ニュースを選定

平成29年三重県議会10大ニュースの投票結果

No.	項 目	内訳					
		HP閲覧者・傍聴者		e-モニター		議員	
		得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率
1	「みえ現場de県議会～女性活躍の推進～」を開催(1月)	15	26.3%	183	24.4%	12	24.5%
2	議長定例記者会見における手話通訳の導入(2月)	34	59.6%	182	24.3%	20	40.8%
3	県議会新体制の発足(議長、副議長、正副委員長等の選出)(5月)	11	19.3%	80	10.7%	10	20.4%
4	議会議中継への手話通訳導入の方針を決定(9月)	26	45.6%	234	31.2%	30	61.2%
5	「みえ現場de県議会～文化振興～」を開催(11月)	10	17.5%	99	13.2%	12	24.5%
6	「子どもの貧困対策調査特別委員会」の委員長報告及び知事への提言(3月)	20	35.1%	281	37.5%	27	55.1%
7	「サミットを契機とした地域の総合力向上調査特別委員会」の委員長報告及び知事への提言(3月)	7	12.3%	215	28.7%	16	32.7%
8	「障がい者差別解消条例策定調査特別委員会」を設置(5月)	24	42.1%	208	27.8%	29	59.2%
9	「働き方改革調査特別委員会」を設置(5月)	24	42.1%	238	31.8%	23	46.9%
10	「平成29年版成果レポート」に関し知事に申し入れ(8月)	2	3.5%	58	7.7%	11	22.4%
11	議会改革度の向上及び議会基本条例の改正に関する検討を行うプロジェクト会議を設置(9月)	14	24.6%	57	7.6%	14	28.6%
12	三重県議会「議員勉強会」を開催(3月、10月)	5	8.8%	46	6.1%	8	16.3%
13	「平和のつどい」に協力(8月)	16	28.1%	130	17.4%	21	42.9%
14	「北朝鮮の地下核実験及び弾道ミサイルの発射に抗議する決議」を全会一致で可決(9月)	22	38.6%	293	39.1%	24	49.0%
15	東海北陸7県議会議長会議を津市で開催(6月)	10	17.5%	117	15.6%	5	10.2%
16	紀伊半島三県議会交流会議で意見交換(7月)	4	7.0%	84	11.2%	6	12.2%
17	政務活動費を減額(4月)	29	50.9%	300	40.1%	23	46.9%
18	政務活動費にかかる領収書等のインターネット公開(7月)	36	63.2%	331	44.2%	27	55.1%
19	県議会議員の選挙区及び定数について意見募集(9月)	31	54.4%	146	19.5%	17	34.7%
20	政務活動費の後払いに関する検討を行うプロジェクト会議を設置(9月)	13	22.8%	141	18.8%	11	22.4%
21	公共政策大学院からインターンシップ実習生を受入れ(9月)	10	17.5%	84	11.2%	3	6.1%
22	その他	1	1.8%	29	3.9%	0	0.0%
得票総数		364		3,536		349	
投票者数		57		749		49	

※得票率：得票数/投票者数

※e-モニター登録者数：1,178人（回答率64%）


※傍聴者の投票者数：24人

※HP閲覧者の投票者数：33人

平成29年 三重県議会10大ニュース（概要）

～開かれた議会運営の実現～

2月	議長定例記者会見における手話通訳の導入
<p>平成28年6月に議員提出条例ある「三重県手話言語条例」が成立しましたことを踏まえ、県議会としても、ろう者が県議会情報を円滑に取ることができるような取り組みを進めています。その一環として、2月から都道府県議会としては初めて議長定例記者会見に手話通訳を導入しました。</p>  <p>手話通訳を導入した議長定例記者会見の様子</p>	

9月	議会中継への手話通訳導入の方針を決定
<p>平成28年6月に議員提出条例である「三重県手話言語条例」が成立し、手話による情報発信等に積極的に取り組む必要があること、また、県民を対象としたアンケート調査で、議会中継への手話通訳導入に肯定的な回答が多かったことなどを踏まえ、来年度から代表質問及び予算決算常任委員会総括質疑の中継に手話通訳を導入する方針を決定しました。</p>  <p>手話通訳を導入した議会中継のイメージ</p>	

～住民本位の政策決定と政策監視・評価の推進～

3月	「子どもの貧困対策調査特別委員会」の委員長報告及び知事への提言
<p>3月21日に行われた最終の委員長報告では、県当局に対して、中長期的な視点も含めた子どもの貧困対策について提案・要望を行いました。また、3月24日には、子どもたちが社会から孤立することなく安心して過ごせる居場所モデル事業の構築、児童養護施設退所後等の子どもたちの自立支援、市町等関係機関との一層の連携、支援が必要な家庭への積極的な情報提供等について知事に提言を行いました。</p>	



委員長報告の様子

5月	「障がい者差別解消条例策定調査特別委員会」を設置
<p>委員会では、障がい者差別解消条例の策定に向け、障がい者を取り巻く現状や差別の解消の取り組みを進める上での課題などについて、関係者からの意見聴取も行いながら、調査を行っていくこととし、県内調査や県外調査、参考人招致を実施するなどの活動を続けています。</p>	




県外調査の様子

5月	「働き方改革調査特別委員会」を設置
<p>委員会では、県内労働者の働き方の実態や課題を把握し、働き方改革の実現に向けた具体的な方策や行政の果たす役割などについて調査を行っていくこととし、県内調査や県外調査、参考人招致を実施するなど活動を続けています。</p>	



参考人招致の様子


～独自の政策提言と政策立案の強化～


8月	「平和のつどい」に協力
<p>今年、県議会が「非核平和県宣言」を決議してから20年目の節目の年にあたります。このことを踏まえ、三重から平和を発信するとともに、県内の若い世代が被爆地の若者との交流などを通じて戦争の悲惨さに触れ、平和への想いをより一層深める機会とするため三重県主催で開催された「平和のつどい」に協力し、県議会が行っている平和への取り組みなどを紹介しました。</p>	 <p data-bbox="853 728 1337 761">「平和のつどい」で平和の取組を紹介している様子</p>

9月	「北朝鮮の地下核実験及び弾道ミサイルの発射に抗議する決議」を全会一致で可決
<p>県議会では、北朝鮮の地下核実験実施の発表及び弾道ミサイルが北海道の上空を通過したことに対し、「北朝鮮の地下核実験及び弾道ミサイルの発射に抗議する決議」を全会一致で可決しました。この決議では、北朝鮮に対し、厳重に抗議し、断固として非難するとともに、国連安全保障理事会の決議を遵守し、全ての核兵器及び既存の核計画の放棄を求める六者会合の共同声明の完全実施及び弾道ミサイルの発射等の挑発行動の自制を改めて強く求めました。</p>	 <p data-bbox="954 1415 1220 1449">本会議での採決の様子</p>

～政務活動費及び議員の定数・選挙区～

4月	政務活動費を減額
<p>議会経費削減のため、「三重県政務活動費の交付に関する条例」の一部を改正し、平成29年4月1日から平成30年3月31日までの間に交付される政務活動費を、条例本則に規定する額から20%特例的に減額しています。</p>  <p style="text-align: center;">本会議で議案説明の様子</p>	

7月	政務活動費にかかる領収書等のインターネット公開
<p>政務活動費の透明性をより一層高めるため、県議会ホームページで従来から公開している収支報告状況に加え、平成28年度分から領収書等もホームページで公開しています。</p>  <p style="text-align: center;">領収書等をパソコンで見ているイメージ</p>	

9月	県議会議員の選挙区及び定数について意見募集
<p>選挙区調査特別委員会では、これまでの検討経過を県民の皆さんにお示しするとともに、幅広いご意見等をお聞きし、これからの議論の参考とするため、意見募集（9月22日～10月20日）を行いました。</p>  <p style="text-align: center;">意見記入用紙</p>	

【参考】

三重県議会10大ニュース(平成28年)

【開かれた議会運営の実現】

- 「みえ現場 de 県議会～鳥獣害に強い地域づくり～」を開催(2月)
- 「みえ県議会だより」の新聞折込を開始(4月)
- 議会の情報発信をスマートフォンに対応(5月、11月)
- 「みえ高校生県議会」を開催(8月)
- 手話通訳付き「みえ高校生県議会」録画中継を配信(9月)

【住民本位の政策決定と政策監視・評価の推進】

- 「子どもの貧困対策調査特別委員会」を設置(5月)
- 「サミットを契機とした地域の総合力向上調査特別委員会」を設置(5月)

【独自の政策提言と政策立案の強化】

- 「第76回国民体育大会の開催に関する決議」を全会一致で可決(3月)
- 三重県手話言語条例(議員提出条例)を制定(6月)

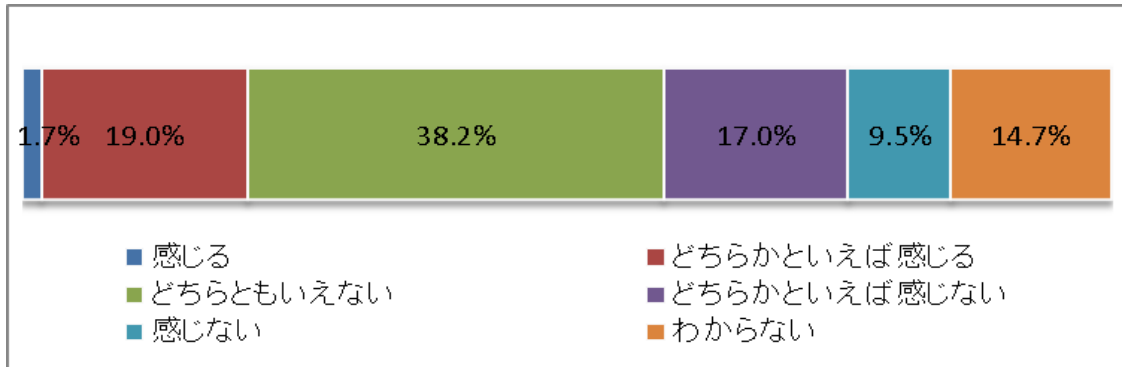
【分権時代を切り開く交流・連携の推進】

- 「第8回全国自治体議会改革推進シンポジウム」を開催(11月)

(Q2 人権尊重社会（三重県）について)

「あなたは、『三重県が県民一人ひとりの人権が尊重されている社会になっている』と感じますか」と聞いたところ、人権尊重社会になっていると感じている方は、「感じる」と「どちらかといえば感じる」と回答した方を合わせると20.7%でした。一方、人権尊重社会になっていないと感じている方は、「感じない」と「どちらかといえば感じない」と回答した方を合わせると26.5%でした。なお、「どちらともいえない」と回答した方は38.2%、「わからない」と回答した方は14.7%でした。

N=749



(Q3 人権尊重社会について（理由）)

Q2で、「そう感じた理由」（自由記述）の一部を紹介します。

【人権が尊重されている社会になっていると感じる理由】

- 手話通訳の導入、駅等でエレベーターの設置が進んでいる。
- 学校等の人権教育によって、低年齢層でも学ぶ機会が増加している。
- 市町毎に人権啓発活動が通常化し、地域社会ではよい方向にある。
- 社内でも障がい者が何人か働いており、皆、仲よくやっている。
- 外国人との交流を積極的に行って、差別をなくし、お互いが尊重をする場がある。

【人権が尊重されている社会になっていると感じない理由】

- 社会的弱者への支援が十分でない。
- 性別等、普段の生活で差を感じる。
- 表面は見えなくなっているだけ。
- 人権については学校でも習ったし、市町での講演会も出来るだけ参加しているが、周りでは変化がない。
- 差別的な言動をする人がいる。

【「どちらともいえない」、「わからない」を選択した理由】

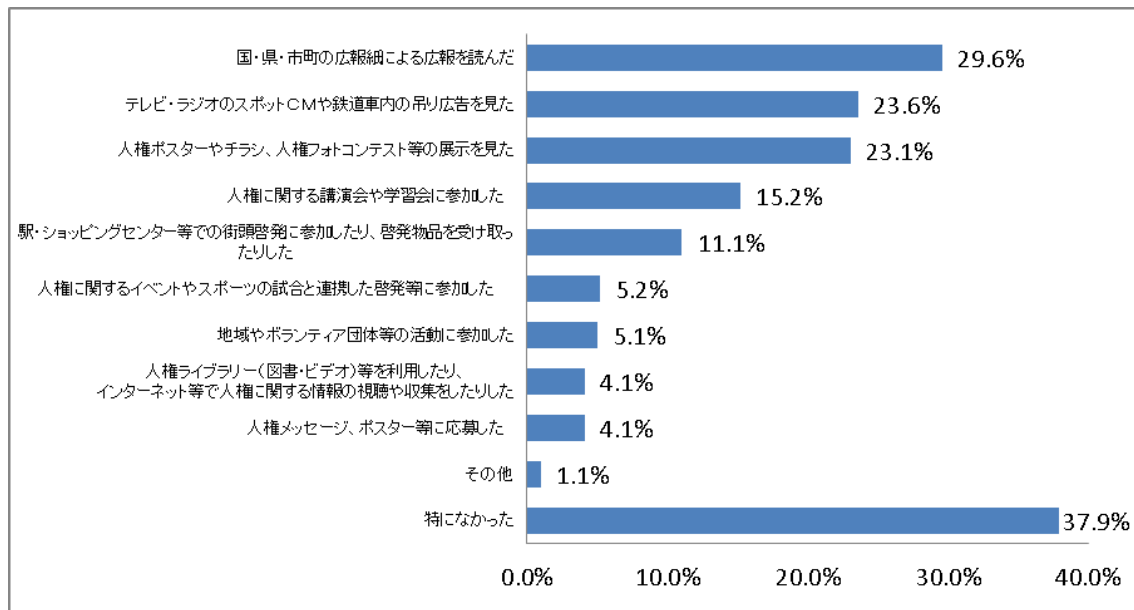
- 普段意識していない
- 人権とは何かよくわからない。
- 情報が入ってこない。
- 人権に関心がない。
- 他の人の意見を知る機会がない。

(Q4 人権啓発・人権学習の機会について1 (複数回答))

最近1年間で人権に関する啓発等について見たり、聞いたり、人権に関して学んだりした機会について聞いたところ、「国・県・市町の広報紙による広報を読んだ」が29.6%、「テレビ・ラジオのスポットCMや鉄道車内の吊り広告を見た」が23.6%、「人権ポスターやチラシ、人権フォトコンテスト等の展示を見た」が23.1%、「人権に関する講演会や学習会に参加した」が15.2%などの順でした。

「その他」では「会社でダイバーシティ教育受講」「小学校の人権学習の参観」などの回答がありました。機会のなかった方は37.9%でした。

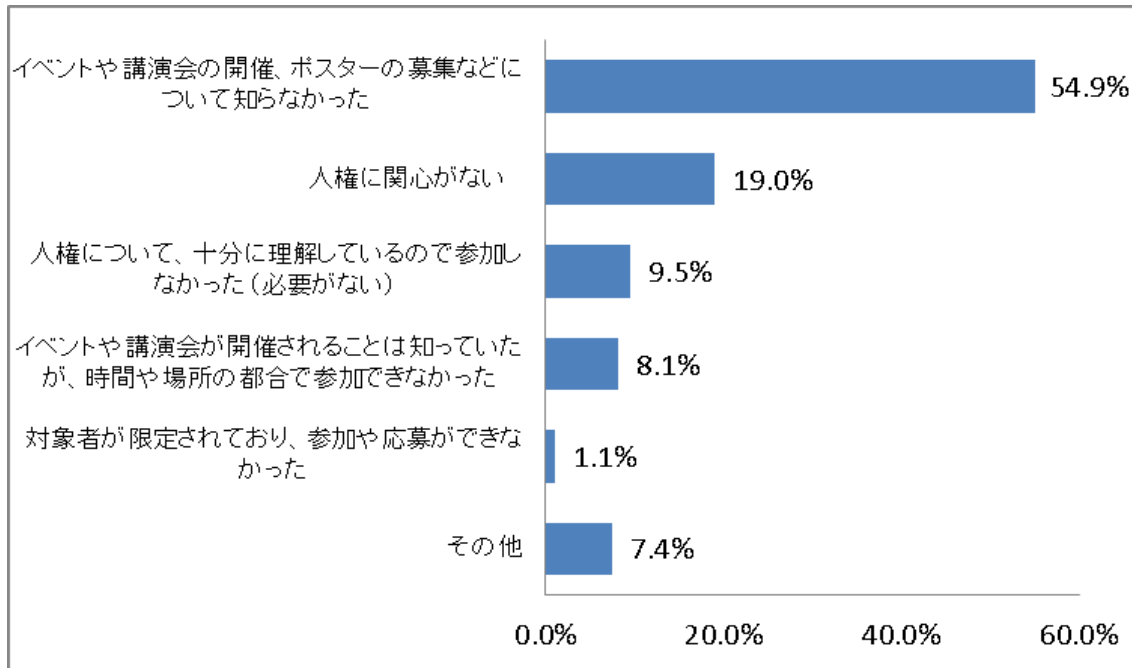
N=749



(Q5 人権啓発・人権学習の機会について2)

「人権学習の機会が特になかった」と回答した方にその理由を聞いたところ、「イベントや講演会の開催、ポスターの募集などについて知らなかった」と回答した方が 54.9%、「人権に関心がない」と回答した方が 19.0%などの順となりました。

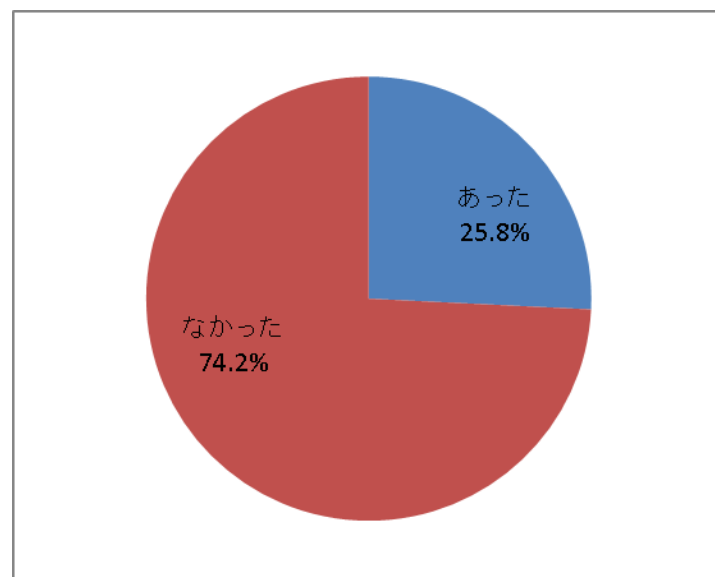
N=284



(Q6 人権侵害について)

人権侵害について、自分、又は家族や友人・知人が、最近 1 年間でいじめや虐待、セクシュアルハラスメント、パワーハラスメント、ドメスティックバイオレンス (DV)、差別待遇などを受けた (受けたと感じた) 方は 25.8%で、なかった方は 74.2%でした。

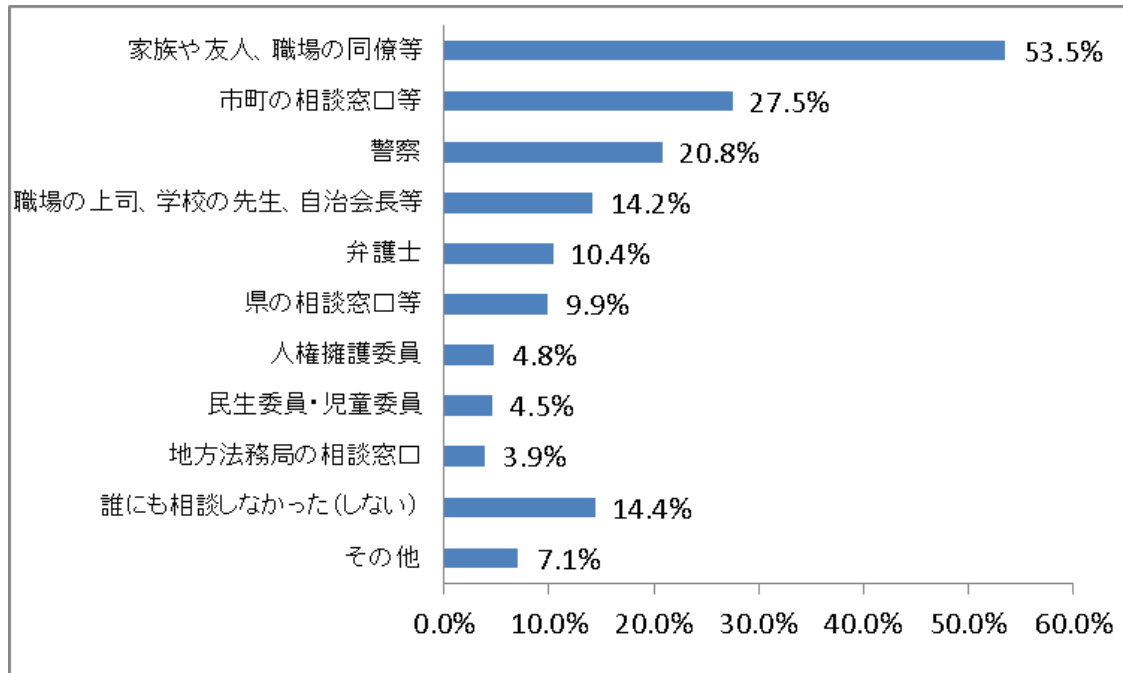
N=749



(Q7 人権相談について1 (複数回答))

人権侵害を受けた場合に相談する相手・機関については、「家族や友人、職場の同僚等」を選択した方が 53.5%、「市町の相談窓口等」を選択した方が 27.5%、「警察」を選択した方が 20.8%、「職場の上司、学校の先生、自治会長等」を選択した方が 14.2%、「弁護士」を選択した方が 10.4%「県の人権相談窓口」を選択した方が 9.9%などの順となっています。また、「誰にも相談しない」を選択した方が 14.4%でした。

N=749



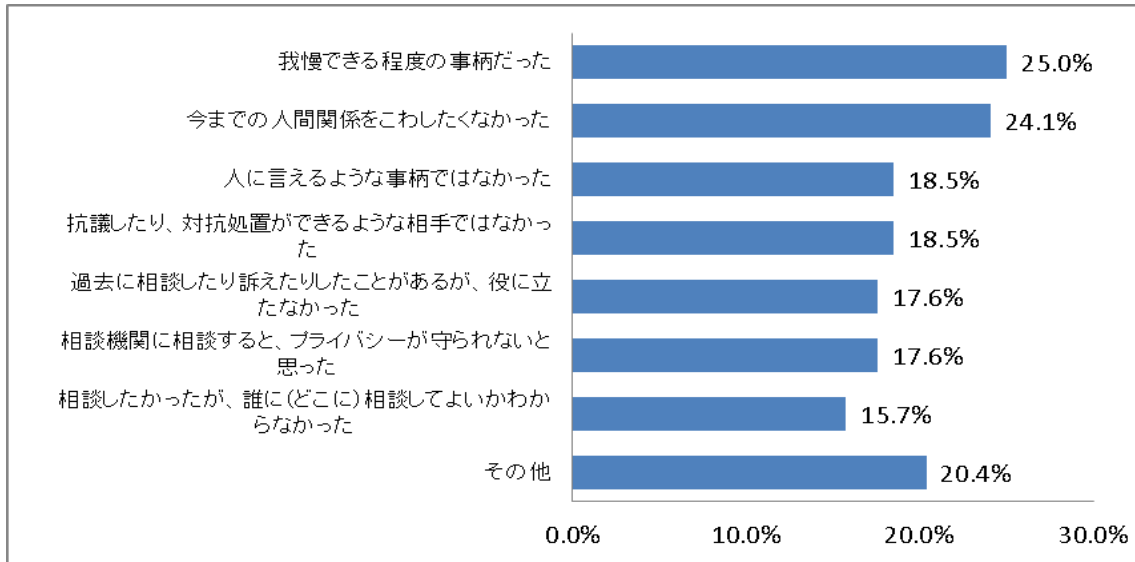
※いじめや差別などの人権侵害を受けて困っている場合、三重県人権センター等公的な機関でご相談を受けています。連絡先等は下記のホームページをご覧ください。

<http://www.pref.mie.lg.jp/JINKENC/HP/38043032182.htm>

(Q8 人権相談について2 (誰にも相談しない理由) (複数回答))

人権侵害を受けた場合、「誰にも相談しない」理由を聞いたところ、「我慢できる程度の事柄だった」と回答した方が25.0%、「今までの人間関係をこわしたくなかった」と回答した方が24.1%、「人に言えるような事柄ではなかった」と回答した方が18.5%、「人に言えるような事柄ではなかった」と回答した方が18.5%などの順となりました。

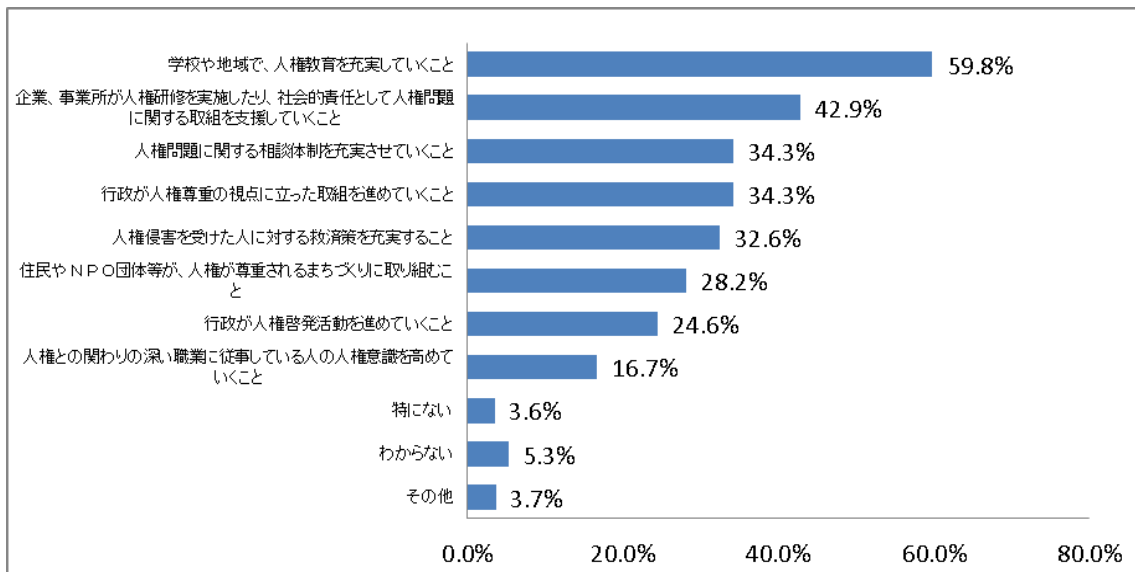
N=108



(Q9 人権尊重社会への取組)

人権が尊重される社会の実現のために重要だと思う取組については、「学校や地域で、人権教育を充実していくこと」が59.8%、「企業、事業所が人権研修を実施したり、社会的責任として人権問題に関する取組を支援していくこと」が42.9%、「人権問題に関する相談体制を充実させていくこと」「行政が人権尊重の視点に立った取組を進めていくこと」が34.3%などの順となっています。

N=749

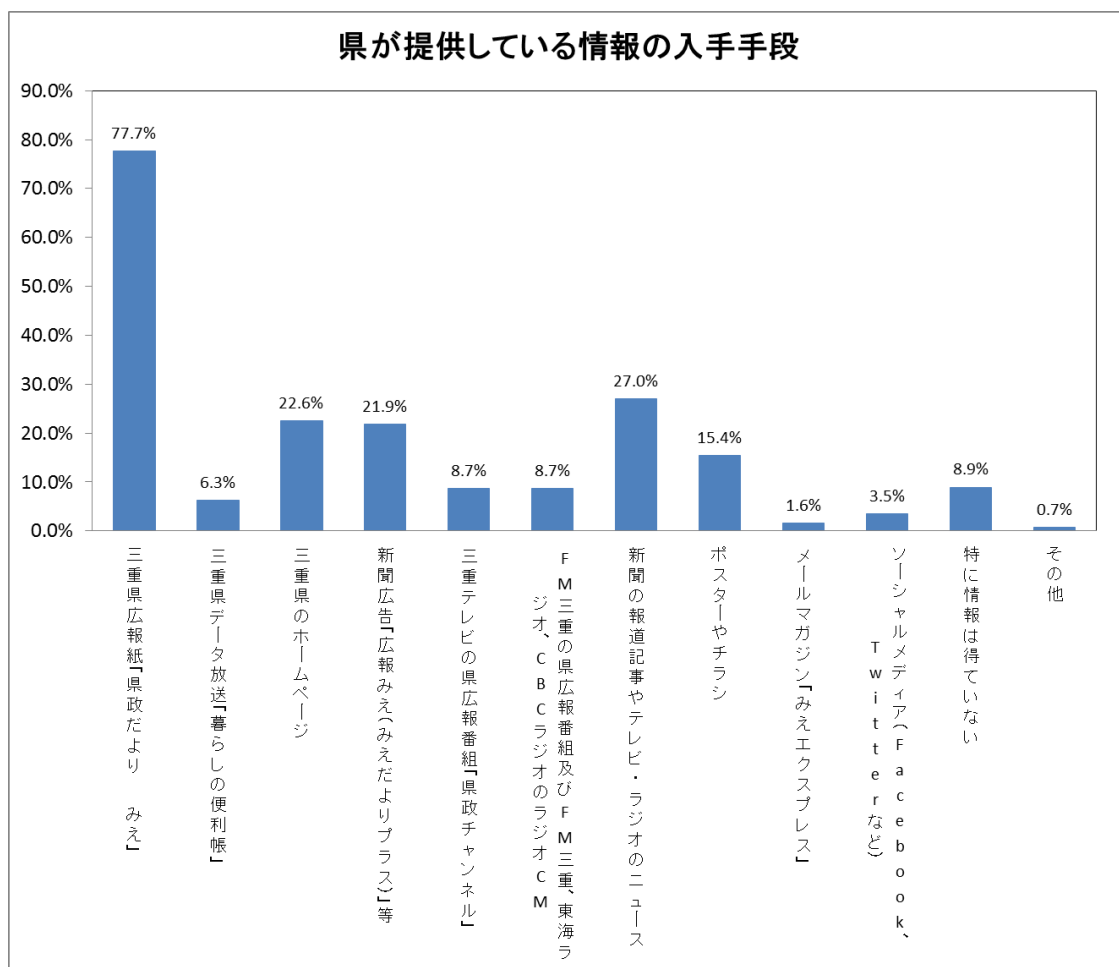


(Q10 県が提供している情報の入手手段について (複数回答))

県の事業や催し物などの情報源については、「三重県広報紙『県政だより みえ』」が 77.7% (582 人) と最も多く、次いで、「新聞の報道記事やテレビ・ラジオのニュース」が 27.0% (202 人)、「三重県のホームページ」が 22.6% (169 人) などとなっています。平成 26 年 4 月から開始した「三重県データ放送『暮らしの便利帳』」は 6.3% (47 人) でした。

県民の皆さんの情報入手手段が多様化していることから、より効果的に広報活動を実施するため、広報紙、新聞やテレビ・ラジオ、県のホームページなど、それぞれの媒体の優れた点を生かし、今後も県の情報をより分かりやすく、適切に発信していきます。

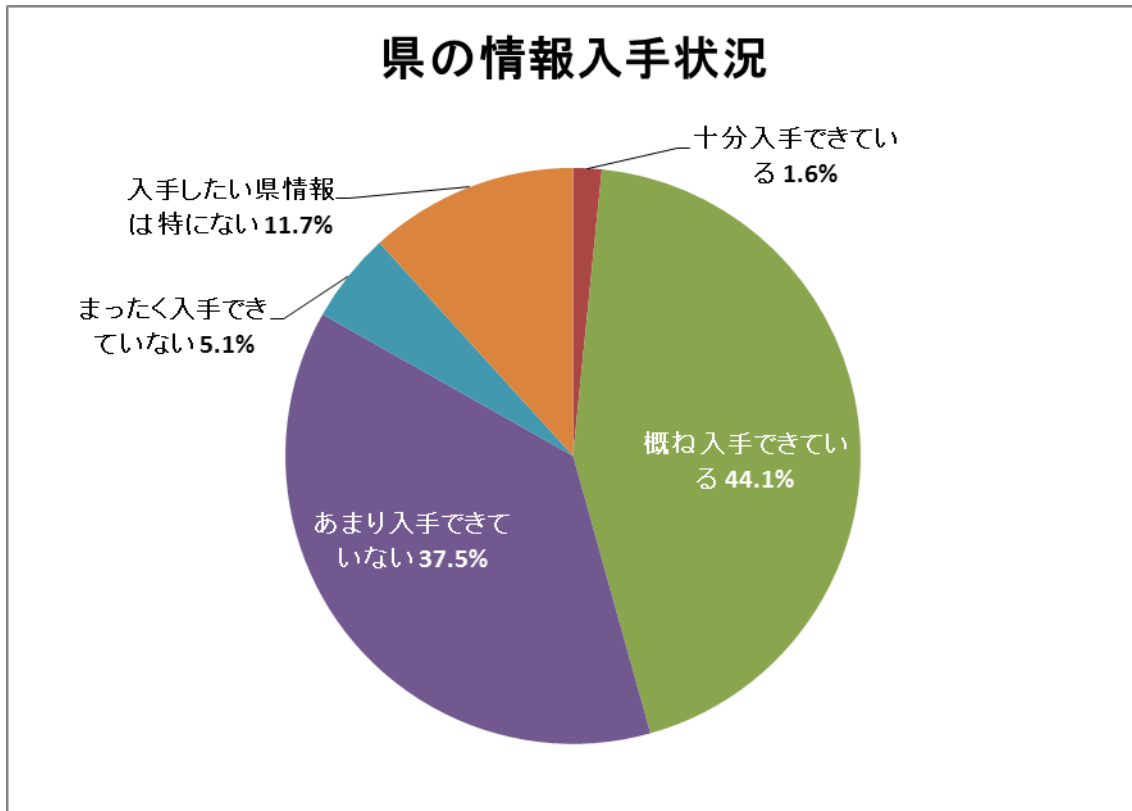
N=749



(Q11 県の情報入手状況について)

得たいと思う県の情報について「十分入手できている」「概ね入手できている」を選択した方は、合わせて45.7%（342人）となっている一方で、42.6%（319人）の方は「あまり入手できていない」「まったく入手できていない」と感じています。県民の皆さんに県の情報を的確にお届けできるよう、各媒体の特性を生かし、さまざまな媒体を活用して、より積極的な情報発信に取り組んでいきたいと考えています。

N=749



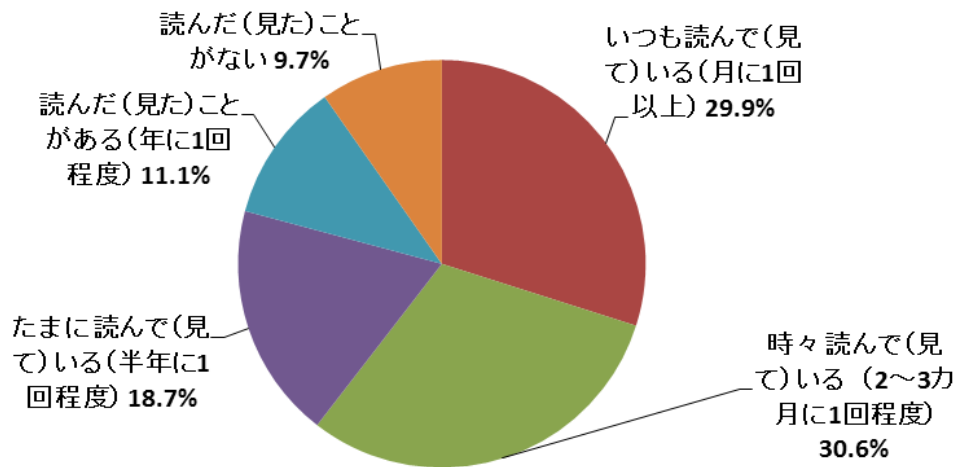
(Q12・13 広報紙「県政だより みえ」の利用状況について 1・2)

広報紙「県政だより みえ」について「いつも読んで（見て）いる」、「時々読んで（見て）いる」とご回答いただいた方は、合わせて60.5%（453人）となっている一方で、「読んだ（見た）ことがない」とご回答いただいた方は9.7%（73人）となりました。

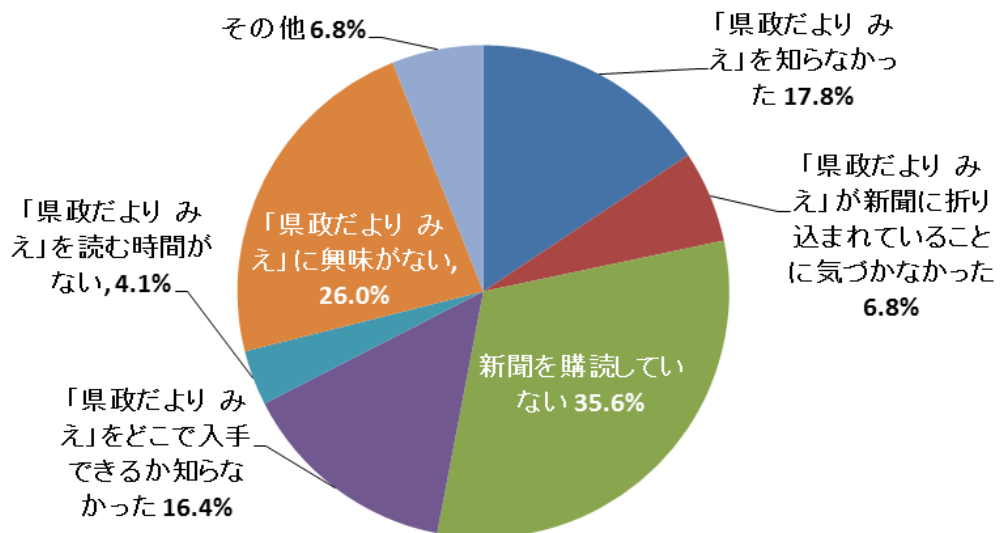
また、「読んだ（見た）ことがない」と回答した方の理由としては、「新聞を購読していない」を選択した方が35.6%（26人）、次いで「「県政だより みえ」に興味がない」26.0%（19人）となっています。

今後も県民の皆さんにより親しんで読んでいただけるよう、さらに掲載内容を充実し、県の情報を的確にお届けしていきたいと考えています。

広報紙「県政だよりみえ」の利用状況 1



広報紙「県政だより みえ」の利用状況 2 (読んだことがない理由)



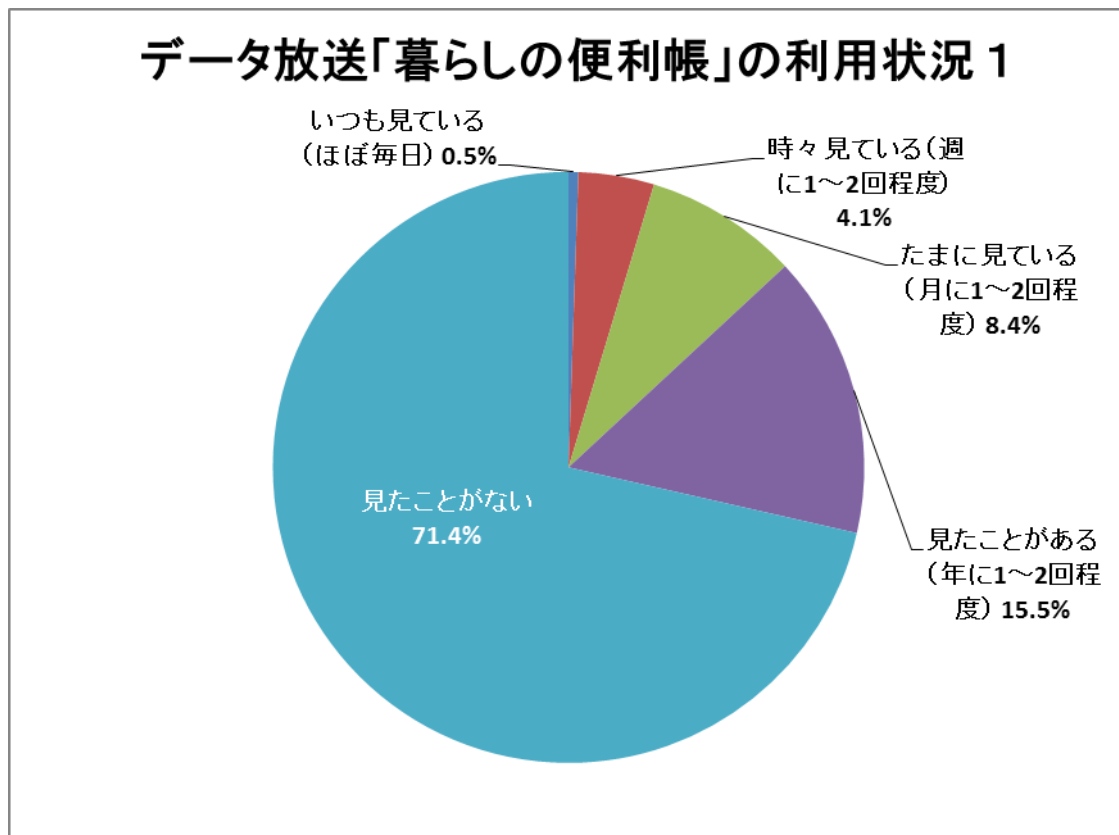
(Q14・15 三重県データ放送「暮らしの便利帳」の利用状況について 1・2)

三重テレビで配信している三重県データ放送「暮らしの便利帳」についてお聞きしたところ、「いつも見ている」「時々見ている」「たまに見ている」「見たことがある」とご回答いただいた方は28.5% (214人) となっている一方で、「見たことがない」とご回答いただいた方は71.4% (535人) となりました。

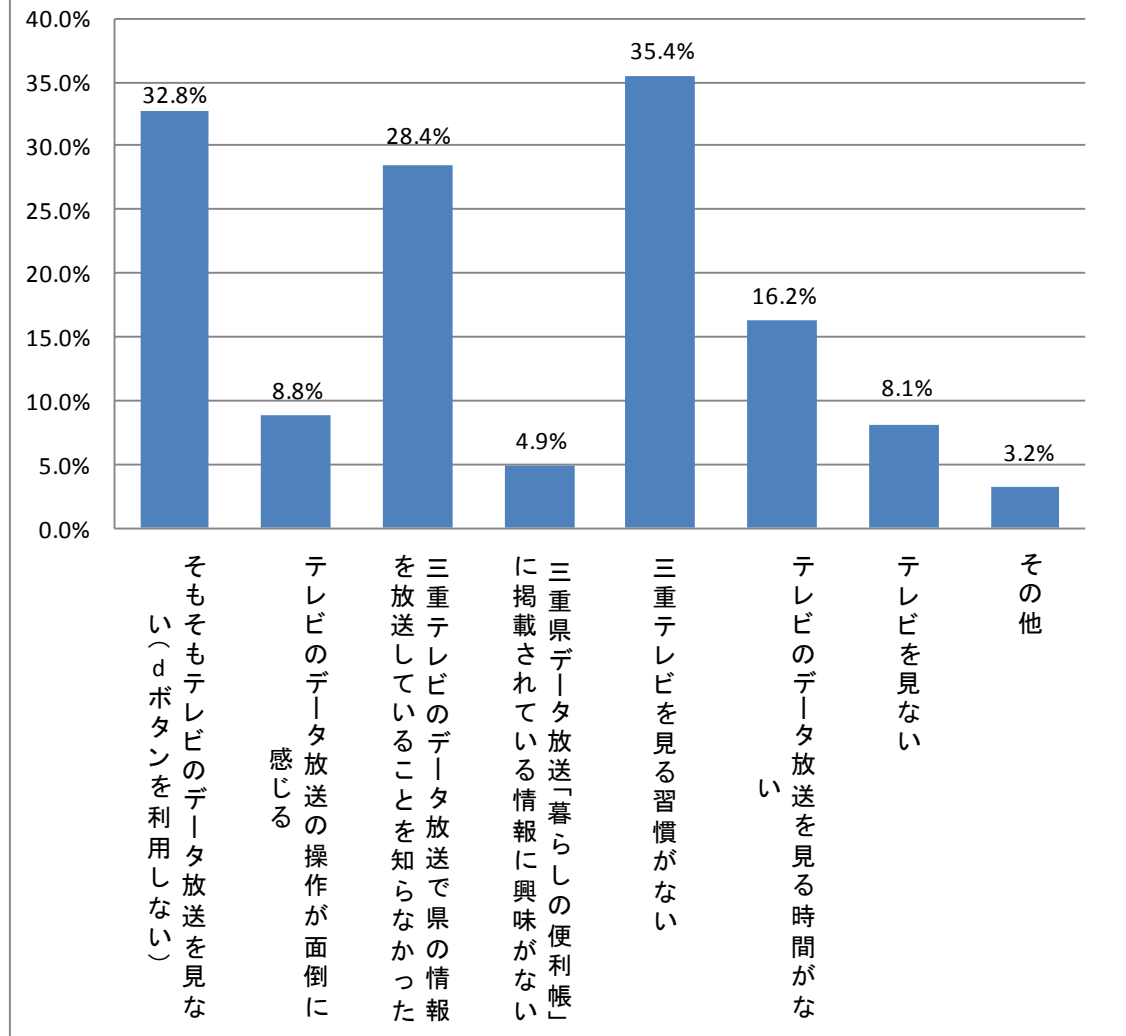
また、「データ放送を見たことがない」を選んだ方に、データ放送を見ていない理由についてお聞きしたところ、最も多かったのが「三重テレビを見る習慣がない」で35.4% (253人) で、次いで「そもそもテレビのデータ放送を見ない (d ボタンを利用しない)」が32.8% (234人)、「三重テレビのデータ放送で県の情報を放送していることを知らなかった」が28.4% (203人) でした。

県の情報を県民の皆さんに伝える媒体としてのデータ放送の利用方法について検討していきたいと考えています。

N=749



三重県データ放送「暮らしの便利帳」の利用状況 2

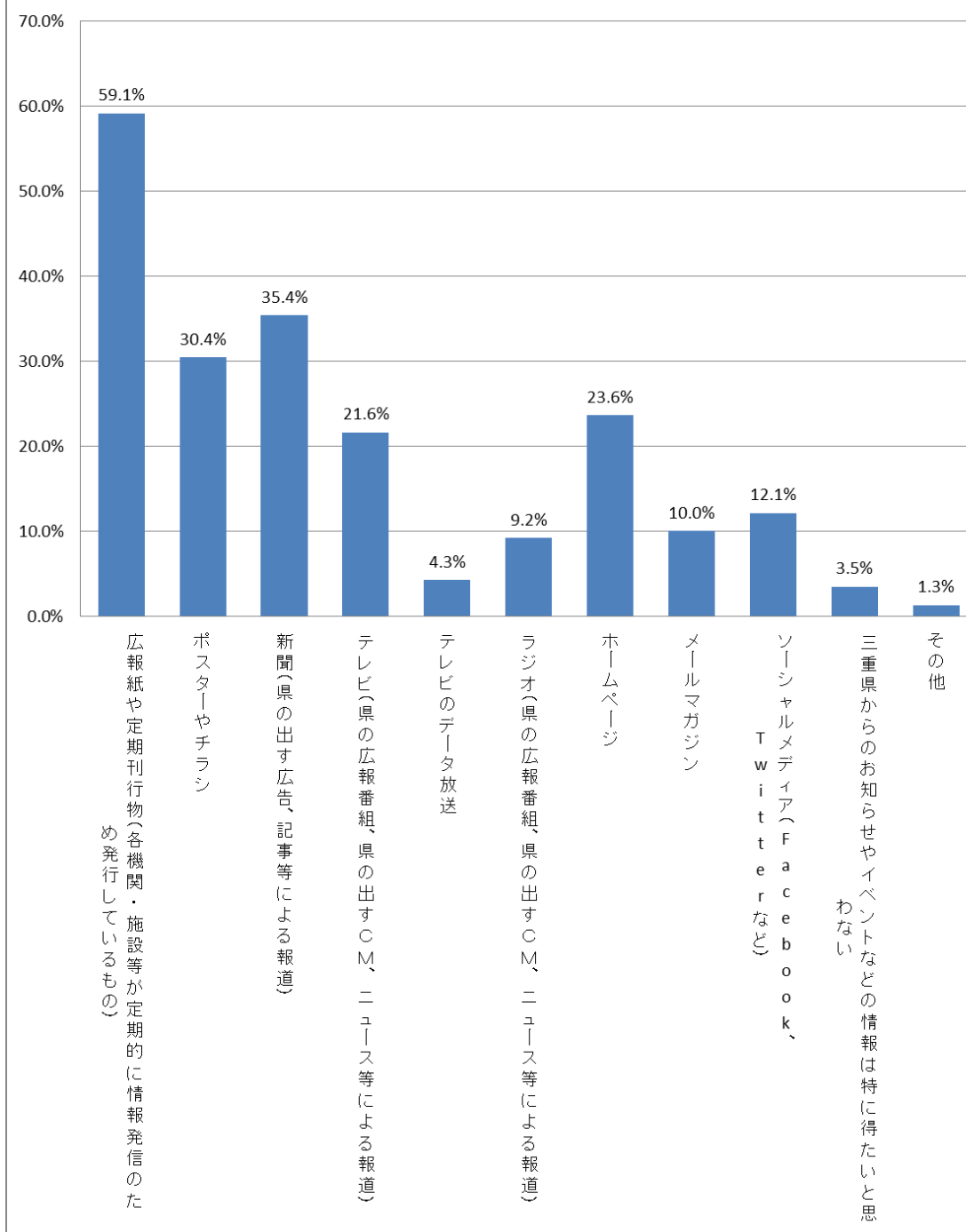


(Q16 三重県からのお知らせやイベントなどの情報の入手手段について)

三重県からのお知らせやイベントなどの情報の入手手段についてお聞きしたところ、最も多かったのが「広報紙や定期刊行物」で 59.1% (443 人) で、次いで「新聞」が 35.4% (265 人)、「ポスターやチラシ」が 30.4% (228 人)、「ホームページ」が 23.6% (177 人) でした。

このことから、お知らせやイベントなどの情報は、手元に残る紙媒体や、見たい時にいつでも見ることができるホームページなどを希望される方が多いことがわかりました。

三重県からのお知らせやイベントなどの 情報の入手手段



(Q17 三重県からのお知らせやイベントなどの情報の入手手段について(自由記述))

「三重県からのお知らせやイベントなどの情報を、どの媒体で入手したいと思うか」に対するご意見の一部を紹介します。

【広報紙や定期刊行物(各機関・施設等が定期的に情報発信のため発行しているもの)】

- 普段入手しやすいから。
- 定期的に配布されるので目に留まりやすい。
- パソコンなどOA機器を所有しない世帯でも情報を入手することができるため。
- 新聞やテレビより無料で、だれでも情報が得られるから。
- 冊子で届いたら見ようと思う。

【ポスターやチラシ】

- 普段目につきやすいから。
- チラシやポスターで見ると忘れないし、目につくところに貼ってあれば、見る機会も増えるので。
- 他のものより偶然知る機会があると思う。
- 仕事で駅を利用するため目にとまりやすい。
- ポスターや新聞の折り込みチラシを見て、イベントに行った時がある。

【新聞(県の出す広告、記事等による報道)】

- 新聞は毎日読むし、広告も見るので情報をチェックしやすい。
- それらを定期的に見ているから。
- 長年の習慣です。
- 毎朝、欠かさず新聞に目を通すのが日課です。
- 自分が日常生活で情報を入手するのに使う手段であるから

【テレビ(県の広報番組、県の出すCM、ニュース等による報道)】

- 目につきやすく簡単便利。
- やはりテレビやスマホから得られると目につきやすいし頭に入りやすい。
- テレビ・ラジオ放送で流れれば、見たり聞いたりした中で記憶に残るから。

【ホームページ】

- ホームページ上であれば、いつ、どこでも情報を手にいれることができるから。
- ホームページや SNS ならばパソコンやスマホがあれば見たい時にいつでもどこでもアクセスできるから便利。
- 必要があればホームページで確認します。

いただいた意見につきましては、今後、三重県からのお知らせやイベントなどの情報を、どのように県民の皆さんに届けていくのがよいかを検討していくための参考にさせていただきます。

(Q18 SNS (ソーシャルメディア) の利用状況について)

さまざまな情報を入手する手段として現在利用している SNS についてお聞きしたところ、最も多かったのが「LINE」で 57.9% (434 人)、次いで「YouTube」が 33.0% (247 人)、「Facebook」が 28.4% (213 人) でした。

SNS を活用した広報は、まだ歴史も浅く、また技術の進歩も速いため、今後も広報に最適な SNS について、常に最新の情報を集めながら検討していきます。

N=749

